

伊藤正之講師の昇格人事の経緯

渡辺学部長はNHKの協力を得るために、樋口克次准教授を審査委員長としたが、11月末、突然審査委員長を降り、昇格人事が見送られることとなった。伊藤正之講師は教職員組合委員長として、事務職員OH氏が退職に追い込まれた際、擁護に奔走した、その怨恨がもたれない。なお、OH氏は樋口准教授が原告を名誉棄損で訴えたが、調査委員として、名誉棄損に当たらないとした一人である。

2007年7月6日(金)13時35分～15時17分

本館第2会議室

経営学部長他 計35名

5. 人事に関する件(後藤副学部長)

(3)伊藤正之准教授昇任(審査可否)について<渡辺学部長>

昇任審査資料を配布(事後回収)後、伊藤正之講師の准教授昇任審査の可否を審議し、投票した結果、審査に入ること承認した。併せて、審査委員を選出した。また、昇任審査の際のプロモートの様式について意見交換を行った結果、改めて議論したうえで、様式を統一し、申し合わせとすることとした。…。吉垣、藤澤の両氏により開票ならびに集計作業が行われた。可23票、否2票、白票8票。

審査委員:樋口克次准教授、増村紀子准教授、加藤千雄准教授(経営情報学部)

・2005年度、2006年度の昇任審査の際には、資料として、「教員活動報告書」を提出いただいた。

●「教員活動報告書」は、規程上のプロモート資料ではない。前執行部で代用していたにすぎない。連絡協議会でも、プロモートの委員会などの履歴は、提出の必要があるが、その様式は定めていないことを確認した。ここには、過去5年間の委員会、社会活動について記載されている。

・連絡協議会の資料では、科目担当だけが記載されていたので、指摘した。今回は、担当コマ数の記録は付記されているが、既定の様式を整えることになってははずだ。教員活動評価制度は、学長声明のとおり、現在、延期となっているが、全く廃止になった訳ではない。学部長がこの様式で提出するよう指示したのか、或いは、本人が作成したものか。

●私が指示した。連絡協議会で、社会活動および委員会についての記載が必要との指摘があったので、この様式で提出していただいた。

・様式については、本人の判断で作成したほうが良い。

・プロモートとして、「教員活動報告書」を用いるかどうかは、改めて議論する必要がある。

・執行部ではプロモートの様式を決めず、本人の判断で作成し、提出いただければ良い。

・必要な内容が記載されていれば、様式にはこだわらなくてよい。

・前々回(2006年3月)の昇任人事から、大学への貢献度を重視して「教員活動報告書」が利用された。それまでは、教育・研究業績のみを審査してきた。大学への貢献度などを審査の対象にすると、審査委員の主観が入ってしまう恐れがある。

・評価後の「教員活動報告書」ではなく、社会活動、委員会活動に関する内容の記載についての項目として「教員活動報告書」を利用していたのである。

●プロモートの書式については、改めて議論し、統一した形を決め、申し合わせにすることとし、今回は、提出いただいたプロモートで審査に入りたい。

・このままの様式なら、コマ数に誤りがあるので、訂正したほうがよい。

・訂正があれば事後報告することとし、このプロモートで審査する。コマ数は、事実確認が必要である。前々回(2006年3月)昇任人事からの「教員活動報告書」を利用する方法もプロモート作成の1つの方法だが、特に、様式が決まっていた訳ではない。今回に関しては、このままの様式で了解願いたい。コマ数は、今確認中なので、投票による審査可否は、後回しにする。

<教務課で、コマ数を確認>

●教務課で担当コマ数を確認した。記載どおり、5コマであった。疑問点があれば、明らかにして審査を進めたい。質問はないか。ないようなので、審査可否の投票を行う。また、論文審査を夏休み中に審査委員にお願いすることにし、昇任可否は夏休み後の教授会で行う。後日、訂正した履歴書を提出いただくが、教授会での回覧は省略する。

8月24日確認 渡辺大介

2008年2月14日(木)14時32分～18時30分(中断 17時8分～17時53分)

本館第2会議室

経営学部長他 計28名

8. 人事に関する件(後藤副学部長)

(4)昇任人事について<渡辺学部長>

7月6日の教授会にて、昇任審査可となった伊藤正之講師の准教授昇任について、学部長より、経過報告があった。

●審査委員より、11月30日に審査できないとの報告を口頭で受けているが、伊藤講師については、海外での学会発表など、積極的に研究活動を行っておられるので、執行部としては是非とも3月の教授会で准教授昇任審査を行いたいと考えている。

2008年3月27日 渡辺大介